

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立鍋島小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	・国語科において「読解力を高めるための授業づくりの工夫」として、児童一人一人の「めあて(問い)」を大切にした校内研究に取り組んだ。全職員の授業公開を通して、単元・授業づくりや言語環境の在り方を検討し、成果や課題を共有しながら研究を推進することができた。このことが、児童が主体的に学び、豊かに表現できる児童の高まりに結び付いた。 ・心の教育では、道徳の授業の充実、人権・同和教育、「心のカード」活用及びQ-Uの職員研修等について実践してきた。このことが、児童が楽しく安心して過ごせる学校・学級づくりで寄与している。いじめ事案や不登校対策については、担当者を中心に管理職とも連携しながら組織的に対応することができた。未然防止・早期発見・早期対応・再発防止の重要性について再認識ができたことや丁寧な保護者対応の在り方について周知できたことは大きな成果である。今後も、児童にとって安心安全な学校を目指していきたい。 ・業務改善・働き方改革については、各部会で業務内容を確認し見直しを持った業務遂行に心掛けたり、学年で共有する教材を使うなど改善に取り組んできた。時期によって差異はあるが、時間外在校時間が短くなっており業務改善の成果が表れてきている。今後も、各部の業務内容や学校・学年行事等について見直しを図り、改善を進めていきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	「笑顔いっぱい 楽しく学ぶ 鍋島っ子の育成」～つながりを大切に～ ・主体的に学習に取り組み、共に力を合わせて伸びる児童 ・規範意識や判断力を身に付け、正しい行動ができる児童 ・思いやりの心をもち、自分も相手も大切にできる児童 ・健康な体づくりに取り組み、粘り強くやり抜く児童
----------	---

3 本年度の重点目標	① 校内研究を通して、主体的に学ぶ児童を育成する。 ② 鍋島スタイルや鍋島共通事項、UD教育等の取組を通して、安全で安心な学校づくりを行う。 ③ 児童の良さを伸ばすことで自己肯定感を高め、規範意識や判断力を育成する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○活用できる力の基盤となる基礎・基本の徹底	○「鍋島スタイル」(学習)が「できている」と回答する児童を85%以上にする。 ○市販テスト国語平均86点、算数平均83点以上にする。		・		・		・		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分や相手を大切にしている児童を90%以上にする。		・		・		・		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「心のカード」の記述内容をふまえ、「いじめを見たり気づいたりしたら、止めよう」にしたり大人に伝えたりしている。」「安心して学校に通っている」と回答する児童の割合を90%以上にする。		・		・		・		
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上		・		・		・		
	○「鍋島スタイル(生活)」を中心に考え、きまりを守り、自分で正しい判断をし、行動できる児童の育成	○「鍋島スタイル(生活)」が「守れている」「大体守れている」と回答できるように目標をもたせる。また、全校児童で達成できている児童を90%以上にする。 ○鍋島スタイル満点カードで9割達成できた児童を85%以上にする。		・		・		・		
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●生活リズムを整えさせ、日常的に運動に親しむ児童を育てる。「早寝早起き朝ごはんができています」と回答する児童を90%以上、「日常的に運動に親しみ、身体を動かすことが好き」と回答する児童を80%以上にする。		・		・		・		
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●年間を通じて給食指導・食育を行い、食べ物を大切にする気持ちと望ましい食習慣、食べ方について学ばせる。「健康に良い食事をしている」と回答する児童を90%以上にする。		・		・		・		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上		・		・		・		
	○業務の効率化の推進	○個人では業務のゴールと優先順位、組織としては、行事の精選と業務の縮減に取り組み、効率化が進んだという職員を80%にする。		・		・		・		
●特別支援教育の充実	○教職員の特別支援教育のスキルアップと校内支援体制の確立	○「支援を要する児童に適切な対応をとるよう努めている」と回答する教職員を90%以上にする。		・		・		・		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○危機管理体制の強化と 対応能力の育成	○家庭と連携した防災教育・安全教育的の充実	○「災害が起きた時に自分の身を守る ことができる」と回答する児童を95%以上 にする。 ○自転車のヘルメット着用率を90%以上 にする。	・年度はじめに避難の仕方や避難経路を伝え、 職員の指導力向上を図るとともに、児童にも朝タ イム等で指導をする時間を確保し、不測の事態 への対応を想像させる。各訓練は、実際に動き の確認をし、対応力を身に付けさせる。 ・道路交通法の一部改正(令和5年4月1日施行) により、全ての自転車利用者に対し、乗車用ヘル メット着用努力義務が課せられることや、正しい 乗り方についての指導内容等を各種便りで家庭 に広める。	・		・		・			

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------